

De Lalande

F.クーブラン:第1
~3ルノン・ド・テネ
ブレ,ド・ラランド:
第3ルノン・ド・テネ
ブレ

エマ・カークビー、アニ
エス・メロン(S)チャ
ールズ・メドラム(Bs,
gamb) テレンス・チャ
ールストン(org)
録音:2005年9月)
[BIS@CD1575]

■柿市 如 (音楽学)

ブルノ・マントヴァーニから献呈された協奏曲の録音に、ブーレーズとのコラボレーションによる《二重の影の対話》サクソフォーン版の初演と、フランス現代音楽界で着実にポジションを確立しつつある若手奏者、中心に据えられたブーレーズの《対話》(ペリオに献呈)を、ペリオの《セクエンツァ》の独奏に室内アンサンブル伴奏を付けた《シュマン》2曲がシメトリックに挟む。その3つをつなぐのは、同じくペリオの《2つのヴァイオリンのための二重奏曲》より14曲。短さと調性でなごませてくれる。締めくくりは、セリー・十二音主義という20世紀の潮流をさかのぼって、ウエーベルンの室内楽曲。面白い構成、かつ内容の濃い一枚と言えよう。なかでもソプラノ、アルト、テナーを用いた複雑な《対話》(《念誦》)としてのブーレーズ作品が印象に残る。ソロでありながらソロでない、不思議な音界間の中で、この楽器の艶ときめの多彩な変化が生かされている。

オムニバス

DIALOGUE, CHEMINS, RÉCIT...



対話、道、物語…
(ペリオ:シュマンIV、
二重奏曲より14曲、ブ
ーレーズ:二重の影の
対話、ペリオ:レシ(シ
ュマンVII)、ウエーベ
ルン:四重奏曲Op.22)

ヴァンサン・ダヴィッド
(sax) ルノー・デジャ
ルダン指揮アンサンブル
・クエレンド・インヴ
エニエティス
録音:2007年1月)
[Aeon@AEC00860]

オペラ/声楽曲
OPERA/SONG/CHORAL

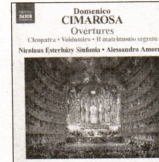
*各筆者により、ディスクの内容が下記の内容の4つの項目のいずれかに該当すると判定された場合、対応するマークを付しました。

- !! 筆者の「今月の特薦盤」
- 🎧 特筆すべき音質優秀盤 (新録音/リマスター)
- 🌐 世界初または希少録音の曲を含む盤
- 👁️ マニア向き!!

■水谷彰良 (音楽学)

演奏団体を変えての第2集には9つの序曲が収録され、聞き覚えのない題名の歌劇もあり興味をそられる。オペラの蘇演が進まない現状では、序曲を聴けるだけでもありがたいと思わねば。演奏会用の交響曲とは異なるオペラのシンフォニアゆえ、急〜緩〜急の3部形式を定型とするが、単一テンポの曲(《空想のアルミミダ》)、トランペットとティンパニを伴う華麗な音楽(《オレステ》)、独奏ヴァイオリンを含む(《女はいつも悪に從う》)など、曲ごとに工夫の跡がみら

Cimarosa



チマローザ/オペ
ラ序曲集 第1集
(ヴォルدمーロ、スト
ランパ男爵夫人、伯爵
の奇行、秘密の結婚、忠実
な不貞、ドン・カレンド
リーノの帰還、大工、ク
レオパトラ、聖妻、太陽
の乙女、信じやすい人、
当惑した興行師からシ
ンフォニア (全12曲))

アレッサンドロ・アモレッティ指揮ニコラウス・エス
テルハージ・シンフォニア
録音:2000年4月)
[Naxos@B.570508]



チマローザ/オペ
ラ序曲集 第2集
(《空想のアルミダ、オ
レステ、ロンドンのイタ
リア女、アルタセルセ、
インドのアレッサンド
ロ、女はいつも悪に從
う、チルチェ、古代ロー
マ狂い、ジャンニーナと
ペルナルドーネからシ
ンフォニア (全9曲))

ケヴィン・マロン指揮トロント室内
録音:2006年7月)
[Naxos@B.570279]

ドヴォルザーク:歌
劇(レサルカ)

リチャード・ヒコックス指揮
オーストラリア・オペラ・オ
ーストラリアcho. シェ
リル・パーカー(S)ロサ
リオ・ラ・スピナ(T)ブル
ース・マーティン(Bs)エ
リザベア・ホワイトハウ
ズ(S)アン＝マリウ
ーウエンス(Ms)他
録音:2007年3月(L)
[Chandos@CHAN10449] (3枚組)

演のライブで、場所がオーストラリア。
2007年の夏シーズン(季節が違ったか
ら)のしよっぱなに行われたシドニーで
の新プロダクションで、演出はオリヴィ
エ・フックスであった。イングリッシ
ユ・ノース・オペラからスタッフを招い
たが、ネイティヴの歌手が参加してい
ないところがオーストラリアらしい。それ